

学校 教育 目標	「やる気いっぱい えがおいっぱい 大正小」				
	○進んで学習に取り組み、できる喜びを実感しながら、問題解決に向かって粘り強く取り組む姿勢を育てます。(知)				
	○社会生活をしていくうえでルール必要性やその意義を知り、自分と同じよう相手を認める心と態度を育てます。(徳)				
	○自分の友達の心身・生命を大切にす気持ちを持ち、自ら進んで健康づくりに取り組む姿勢を育てます。(体)				
○なかよし班活動などを充実させ、地域社会との連携を深めながら共に生きる姿勢を育てます。(公)					
○国際理解教室、英語教育、「横浜の時間」などを通し、様々な現代的な課題に対応できる力を育てます。(開)					
学校 概要	創立 104 周年	学校長	山崎浩一郎	副校長	青柳 英樹
	児童生徒数: 533 人	主な関係校: 大正中学校			
				2 学期制	一般学級: 16 個別支援学級: 5

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
○主体的に問題解決する力 ○豊かな心 ○社会で生きる力	大正中学校 小雀小学校 東俣野小学校 大正小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・学習に向かう姿勢を身につけ、粘り強く学ぶ子どもを育てます。 ・互いの違いを認め合い、自他を大切に、学び合い、高め合える子供を育てます。 ・気持ちのよいあいさつができ、顔面とよい人間関係を構築する子どもを育てます。 ・きまりやルールを守り、より良い集団を築く子どもを育てます。 <p>各教科で育てたい資質・能力を小中で確認し、9年間の教科指導計画の実践・改善を図っていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学習に向かう姿勢を身につけ、粘り強く学ぶ姿」を引き出す授業のあり方について研究する。 ・児童生徒に関わる情報交換、問題の共有化と改善策の話合いや児童・生徒の交流の場を通し、9年間を見通した子どもの 育成を図る。

中期 取組 目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育目標の実現に向け、昨年度の取組を引き継ぎ、校内研究授業を充実させながら、いきいきと活動する子どもの育成を目指します。 ・対話的な学習の場を設定することで、子どもたちの「わかる・できる」気持ちを伸ばして、主体的な学びや基礎基本の定着につなげていきます。 ・小さな成功体験の積み重ね及びその価値づけにより、自己肯定感を高め、自分や友達のよさを大切にする子を育てます。 ・俳句の創作活動、年間を通した栽培活動、集会を中心とした音楽活動、それぞれのよさ、楽しさを味わい、豊かな心を育てます。 ・学校のやくそくを常に意識し、集団の中で生活するためのルールを守り、規範意識を高める中で、社会で生きる力を育てます。 ・互いのよさを認め合い、いじめをしない心を育てるとともに、誰もが居心地のよい空間づくり、仲間づくりに努めます。
----------------	--

重点取組分野	具体的取組
確かな学力	学校教育目標「やる気いっぱい えがおいっぱい 大正小」の実現に向け、あきらめず粘り強く学習する子を育てる。①朝学習の充実を図り、基礎・基本の定着を図る。②朝読書の時間を活用し、読書の習慣を身に付ける。③小中一貫カリキュラムを見直し授業改善に取り組み、重点研究のテーマ「できる・わかる喜びを味わい、進んでかかわり合う子の育成」を実践し、①児童一人ひとりの課題を明確にし、個の実態に合った手立てをとることで、児童が考える楽しさを感じられる授業展開をめざす。
担当 評価委員会	
豊かな心	①道徳の時間のさらなる充実と、人権教育の視点から日々の各教科等の授業改善を図る。②たてわり活動を通して異学年の児童同士のつながりを築くようにする。大正リーダーズとして、学校をよりよくしていき下級生の見本となろうとする心を育てる。③美しい言葉に触れ、様々な自然を感じながら、年間を通した俳句作りや音楽活動から季節の変化や言葉のおもしろさに気づき、大切にしようとする態度を育てる。
担当 人権委員会	
健やかな体	①保健委員会、給食委員会を中心に、児童に健康への関心と給食習慣に生活を振り返ることで、食の大切さに気付かせる。②体育委員会を中心に、年間取組むことができる運動を呼びかけたり、企画したりすることで、自ら健康・体力の向上を図る。③体育科の学習を通して、休み時間や放課後遊びでも取り入れられる運動とつながれた授業づくりを行い、主体的に運動に親しもうとする心身ともに健康な子どもを育成する。
担当 体育部	
特別支援教育	①特別支援教育の校内体制を整え、児童支援専任教諭を中心に連携を図る。②ユニバーサルデザインの考え方にに基づき、誰にもわかりやすく、安心して参加できる環境づくりに努める。③個別の支援計画・指導計画を作成し、必要な支援を系統的に立てて実践する。④一般学級と個別支援級の連携を強化し、どの子どもも平等に大切にされるという意識の浸透化を図り、豊かな交流ができるようにする。
担当 特別支援委員会	
地域連携・ 学校運営協議会	①清掃活動や祭礼行事、防災訓練、レクリエーション大会等に職員が分担して参加し、地域理解と地域とのつながりを深める。②クラブ活動のボランティアをこれまでよりも増員したり、スポーツ推進委員、青少年指導員、民生委員等との連携も広めていく。③学校運営協議会の運営の仕方や目標を地域と共有する中で、地域と共に子どもたちをよりよく育てる学校運営の充実を図る。
担当 教務部	
児童指導	①「学校のやくそく」の改善及び推進し、すべての児童が同じルールの中で生活するための指導に努める。②児童の心身の不調を把握し、児童や保護者と相談を行い、必要に応じて外部機関・医療機関等と連携を図る。③朝会で生活目標を達成するための具体的な取り組みや月末の振り返りを学年ごとに行うことで、生活目標を意識して学校生活を送れるようにする。
担当 児童支援専任	
a14	b7
担当	
a15	b8
担当	
いじめへの対応	①毎月一回定期的に全職員による特別支援委員会(「いじめ防止対策委員会」)を行い、児童や家庭に関する情報を共有し、いじめを未然に防止するよう努める。②「特別の教科道徳」や人権教育、小中ブロック共通の取組を全校で行うことにより、児童に自己をより多角的・多面的に見つめ、自らの考えを深める力や他者を思う心を育成する。③必要に応じていじめ防止対策会議を開き、scやssw、他機関と連携する。
担当 いじめ防止委員会	
人材育成・ 組織運営 (働き方改革)	①重点研究授業研究会・メンター研修会を中心とした研究、研修を計画的に行い、全教職員の授業力向上、教育環境の充実を図る。ミドルリーダー・若手リーダーの育成を推進し、組織・チームによる取組、課題対応を推進する。③メンターチームの主体的活動をミドルリーダーが中心に支援し、主幹教諭が助言をする。④校内研修の計画的実施により、コンセプライアンス・児童指導・いじめ防止と早期発見、危機管理対応等、学校運営に求められる教職員のスキルの向上を図る。⑤グループウェアの活用をさらに推進し、情報の共有化を図るとともに、事務の簡略化、効率化、行事の精選を図り、働き方改革につなげる。
担当 主幹会	